建設建築委員会記録(No.7)

1 日 時 令和7年6月11日(水)
午前10時00分 開会
午前10時33分 閉会

2 場 所 第2委員会室

3 出席委員(9人)

委員 長	森 結実子	副委員 長	中 島 隆 治
委 員	佐 藤 栄 作	委 員	田 仲 常 郎
委 員	片 山 尹	委 員	成 重 正 丈
委 員	山 崎 英 樹	委 員	山 内 涼 成
委 員	井 上 純 子		

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

都市戦略局長	小 野 勝 也	総務政策部長	大 迫 道 広
都市整備局長	持 山 泰 生	総務用地部長	井 上 尚 子
道路部長	北 島 徳 隆	長寿命化対策課長	川 原 俊 一
街路課長	和 田 賢二郎		外 関係職員

6 事務局職員

委員係長	伊 藤 大 志	書 記	山 下 絵美理
------	---------	-----	---------

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	審査日程について	11日は議案の審査、12日は議案の採決、請願・陳情の審査及び所管事務の調査を行うことを決定した。
2	議案第78号 北九州市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正について	議案の審査を行った。
3	議案第80号 市道路線の認定、変更及び廃止について	
4	議案第81号 戸畑枝光線（戸畑牧山間）新設に伴う明治町架道橋付近函体推進工事委託協定締結について	
5	議案第84号 令和7年度北九州市一般会計補正予算（第1号）のうち所管分	

8 会議の経過

（6月1日付人事異動に伴う人事紹介を受けた。）

○委員長（森結実子君）開会します。

本委員会に付託された議案は、お手元配付の一覧表のとおり4件であります。審査日程については、本日は議案の審査を行い、明日は議案の採決、請願・陳情の審査及び所管事務の調査を行います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

ただいまから議案の審査を行います。

議案第78号、80号、81号及び84号のうち所管分の以上4件を一括して議題とします。審査の方法は、一括説明、一括質疑とします。当局の説明は、できるだけ要件を簡潔、明瞭にお願いします。なお、議案の説明は着席のままで受けます。

それでは、説明を求めます。総務政策部長。

○総務政策部長 それでは、本日御審議いただきます都市戦略局所管の条例議案1件について、令和7年6月北九州市議会定例会議案により御説明いたします。

タブレットの25ページをお願いいたします。議案第78号、北九州市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正についてでございます。

本議案は、農林水産物の直売所の機能強化を図ることを目的に、令和7年3月に都市計画決定した払川地区地区整備計画区域について、建築用途等の実効性を確保するため、本条例を改めるものでございます。28ページから30ページにかけまして新旧対照表がございまして。後ほど、御参照いただければと思います。

改正の内容につきましては、払川地区地区整備計画区域を新たに条例の適用区域に加えるため、当該区域において建築できない建築物など、関係規定を追加するものでございます。施行期日は公布の日としております。なお、タブレット端末にて、同地区の地区計画の位置図及び計画図が御確認いただけますので、後ほど御覧いただければと思います。

以上で都市戦略局所管の議案の説明を終わります。よろしく御審議の上、御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（森結実子君） 総務用地部長。

○総務用地部長 続きまして、都市整備局の所管議案について説明します。

御審議いただきます議案は、一般議案2件及び補正予算議案1件でございまして。

初めに、一般議案のうち、議案第80号、市道路線の認定、変更及び廃止についてを、令和7年6月北九州市議会定例会議案書により説明いたします。

タブレットの34ページをお願いします。この議案は、道路法第8条第2項及び第10条第3項の規定により、市道路線の認定、変更及び廃止を行うものです。

次のページをお願いします。新たに路線を認定するものは、小倉南区の朽網東46号線など19路線です。

次のページをお願いします。路線を変更するものは、小倉南区の貫153号線など2路線です。

次のページをお願いします。路線を廃止するものは、小倉南区の長野24号線など3路線です。

議案第80号については以上でございまして。

次に、議案第81号、戸畑枝光線戸畑牧山間新設に伴う明治町架道橋付近函体推進工事委託協定締結について、タブレット配付資料により説明いたします。

タブレット配付資料の1ページをお願いします。本議案は、北九州市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条に基づき、議会の議決に付さなければならない工事の契約に関するものでございます。本協定は、本市が施行者として事業を進めている都市計画道路戸畑枝光線の新設に伴い、JR鹿児島本線及びJR鹿児島貨物線に並行し、鉄道に近接する戸畑区明治町のアンダーパス直下において、トンネルを築造する工事を九州旅客鉄道株式会社に委託して行うものでございます。委託金額は79億9,840万8,000円です。委託する工事期間は、令和7年6月から令和11年3月31日までとなっております。2ページ以降に、本工事の完成予想図と平面図を添付しておりますので、後ほど御確認ください。

一般議案の説明は以上です。

最後に、補正予算議案です。議案第84号、令和7年度北九州市一般会計補正予算のうち所管

分について、令和7年度北九州市補正予算に関する説明書により説明いたします。なお、説明に当たりましては、金額は万円単位で説明いたします。

タブレットの9ページをお願いします。歳入です。下の表の1つ目、25款1項7目土木債、補正額3億2,400万円は道路事業に係る市債です。

タブレットの14ページをお願いします。歳出です。一番上、9款3項1目道路維持費は補正額3億6,000万円で、常盤橋の木製の橋桁部分が万が一落ちた場合、周辺の安全確保上、支障があるため、この木製の橋桁部分を取り外すとともに、架け替えを軸とした今後の在り方について検討を行う経費です。

補正予算に関する説明は以上です。

以上で都市整備局関係議案の説明を終わります。よろしく御審議の上、御賛同賜りますようお願いいたします。

○委員長（森結実子君） これより質疑に入ります。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質疑はありませんか。佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 常盤橋の件なんですけれども、3億6,000万円で具体的にどんなことをするのか、もう少し詳細に教えていただきたいと思います。

○委員長（森結実子君） 長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 常盤橋の補正予算の3億6,000万円ですけれども、まず、木製の橋桁部分の取り外しの工事費として3億5,000万円、取り外しの工事のための設計委託費と架け替えを軸とした今後の在り方検討に要する委託費を合わせて1,000万円、合計3億6,000万円としております。以上でございます。

○委員長（森結実子君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 分かりました。その部分を解体して、今後、架け替えを軸に在り方検討会に諮って結論が出るということだと思っておりますけれども、市長も議会での答弁の中で、地域の皆さんの思いを大切にしていきたい、受け止めているという答弁がありましたので、架け替えないということはないと思っておりますけれども、検討会に諮るわけですが、可能性として、撤去するというようなことも考えられるのでしょうか。

○委員長（森結実子君） 長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 市としては今、架け替えを軸にということで検討を進めております。今後、検討を進める中で、まず市民の安全・安心を第一に、木製の部分の橋桁を取り外すわけですが、架け替えに当たっては、今ある木製の基礎部分を取り外した後に調査を行って、再利用できるかとか、そういったところも含めて検討会の中でも議論して、意見をお聞きしたいと考えております。以上でございます。

○委員長（森結実子君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 僕のところにも地域の方から、今のような木製の橋をもう一度ということではなくて、別の形でもいいのでぜひ残してほしいということも届いていますので、そこら辺もしっかり酌んでいただきたいと要望して、終わります。

○委員長（森結実子君） ほかにありませんか。井上委員。

○委員（井上純子君） まず、議案第81号にあります戸畑枝光線のアンダーパス直下におけるトンネル築造について伺います。

この時期、大雨が増えてきて、雨水処理において排水構造に負荷がかかっている中で、ほかの自治体でも道路陥没が起きたりと、こういった工事がいろいろと注目されて、不安も高まっているんですけども、今いろんなほかの自治体で起きている状況を踏まえて、北九州市はそういったことを防ぐための何か新たな対策がもしあれば教えてください。

その次に、常盤橋の解体工事につきまして予算3億6,000万円、橋桁の取り外しということで、その中に設計という言葉があったんですが、設計が、あくまで解体までを含んでいるものなのか、もしくは架け替えまでの設計を含めているのか教えてください。

もう一点、在り方検討会に先ほど1,000万円と聞こえたんですけども、地元の方を中心とした在り方検討会の中に、どこに1,000万円のお金がかかるのか教えてください。以上です。

○委員長（森結実子君） 街路課長。

○街路課長 戸畑枝光線の湧水、水に対する対策について御説明いたします。

今、この工事は、地下におよそ15メートル立て坑を掘る形になります。矢板で周りを固めますけれども、さらにその矢板の背後地に注入剤を注入しまして、水の浸入を防ぐような対策を取ろうと考えております。以上です。

○委員長（森結実子君） 長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 補正予算の委託費の1,000万円の内訳ですけれども、まず設計ですけれども、取り外し工事のための設計費用としております。川の中ということもあり、ステージといって足場を組んでやるような作業を想定しているんですけども、そういった特殊性もありますので、その設計費用を予定しています。また、在り方検討に要する費用ですが、今後検討会で架け替えを軸にいろいろ議論を進めていくんですけども、常盤橋やその周辺にある歴史とか観光施設とか町の魅力とか、そういったものを一度掘り起こして、改めて調査をして取りまとめていくような検討の経費を計上しております。以上でございます。

○委員長（森結実子君） 井上委員。

○委員（井上純子君） まず、戸畑枝光線の工事の雨水の対策につきまして、ありがとうございます。注入剤で水の浸入を防ぐということで、できる対策はしていただきながら、どうしても、100%防げるとは思っていないんですけども、注目度が高いですし、災害も多いので、できる限りの対策は、これは追加予算を打ってでも確実な工事としてほしいということを要望します。

続きまして、常盤橋の解体工事の設計費につきましては、足場など含めた解体に係る取り外

しの設計費と理解いたしました。ただ、在り方検討会の1,000万円という積算のところなんですが、今答弁にありました周辺の魅力の掘り起こし、今後、観光として、もし造るのであれば活用されることは私も以前から望ましいと思っておりますので、掘り起こしということは重要な課題だと思うんですけども、具体的に掘り起こしを探るために1,000万円、どういう掘り起こしの手法というか、様々あると思いますけど、この辺、具体的に考えられていますでしょうか。

○委員長（森結実子君） 長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 すいません、先ほどの委託料の1,000万円の補足ですが、取り外しの工事のための設計費用と、在り方の検討に要する費用を合わせて1,000万円ということで考えております。今のところ、設計費用がおおむね800万円ぐらいということで、200万円を検討費に充てたいと。これから調べていくんですけども、いろいろ常盤橋に関係する、小倉城、小倉城庭園とか森鷗外とか伊能忠敬とか、そういった地勢的なものとか歴史とかを、これからいろんな方の意見を聞きながら調べていきたいと。そこを取りまとめていきたいと考えております。

○委員長（森結実子君） 井上委員。

○委員（井上純子君） ありがとうございます。今の答弁だと、あくまで周辺とセットの歴史、ストーリーを掘り起こしていく、確認していく。これは重要だと思うんですけども、じゃあこれを今後どう人を呼ぶために売り出していくか。ここまでは何か考えられていたりしますか。

○委員長（森結実子君） 長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 今後、その活用方法については、都市ブランド創造局、都市戦略局とも連携をしながら、一緒に検討会も含めて考えていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（森結実子君） 井上委員。

○委員（井上純子君） ありがとうございます。長寿命化対策課では絶対にやり切れない仕事だと思いますので、ここはしっかり都市ブランド創造局も巻き込んで、ハード面が橋を造るだけでどこまで売れていくかっていう、周辺の観光客の呼び込みってなかなか難しい部分はあると思うんですけども、ソフトでもイベントでも、もし橋を造るのであれば、ほかにはない橋の売り込みといいますか、何かほかと違うものを売り出していけるのかとか、どうしても全体の景観というのは、町全体が変わらない以上は景観ってあまり変わらないからですね。何か、造ることをきっかけに、長崎街道に引っかけていくのか、なかなか難しいですけども、小倉城が今集客がうまくいっていますので、そことどうパッケージを組んでいけるのかとか、具体的な連携というところは都市ブランド創造局とちゃんと実現できる形で進めていただきたいということを要望して、終わります。

○委員長（森結実子君） ほかにありませんか。成重委員。

○委員（成重正文君） ちょっと教えていただければと思います。

議案第81号の戸畑枝光線の件ですけども、工事の仕方なんですけど、ボックスはその場で造るんですかね。それとも、どこかほかから持ってくるんですかね。

それと、横にJRの線路がありますけども、これに影響があるとかないとか聞いたことありますが、それは大丈夫なんでしょうか。以上です。

○委員長（森結実子君） 街路課長。

○街路課長 お手元に平面図があるかと思うんですけども、委託工事範囲として矢印を引っ張っている、この延長が約90メートルあります。その左寄りの真ん中あたりに明治町アンダーパスがあるんですけども、明治町アンダーパスの直下の30メートルにボックスカルバートを入れますが、このボックスカルバートは、その右の立て坑、掘った穴の中で現地で造ります。それで、左側に推進していくと。

あと、近接なんですけども、右下の図面を御覧いただけると分かると思うんですけども、鉄道の施設から約1メートルぐらいの近接のところに矢板を打つ形になります。その矢板をさらに土留めするために、鉄道の地下といいますか、線路の地下にアンカーを打っていく形になりますので、これを設計段階に解析をしましたところ、やはり応力が働いて変位があるだろうというところで、今回JRさんに委託するという形になっております。以上です。

○委員長（森結実子君） 成重委員。

○委員（成重正文君） その場で造って、それをスライドさせていくということですね。すごいですね。分かりました。ありがとうございます。

○委員長（森結実子君） ほかにありませんか。山内委員。

○委員（山内涼成君） 今のJRの委託契約についてですけれども、金額等々、工事費の関係とか、これは国からも指導が入っていると聞きましたので、ここは妥当な金額なのかということについては今後もしっかり見ていただきたいなど、これは要望しておきます。

常盤橋ですけれども、これはマイタウン・マイリバー整備事業の一環で、7億円かけて造っているんですよね。当時、このボンゴシ材を使うことで議論になりました。ボンゴシ材を使えばコンクリートと同じ強度があるんだということを言って、木の橋にしたわけですよね。ただ、変遷を見てもみますと、1889年当時は鉄橋になっているんですよね。木が果たしてコンクリートと同じような強度があったのかということところは検証すべきだと思うんです。ボンゴシ材というのも外国産の木ですよね。これが果たして、建築の専門家から言わせれば、気候の違う国から持ってきた木がこの北九州市でどれぐらいもつのかという検証が、十分されていたのかということも疑問でもあります。これ7億円かけて造っていますよね。今度、3億円かけて壊すわけです。この橋1本に10億円かけるということですよね。ここはしっかり検証してもらわんといかんと思います。

それから、これを今からどういう橋にするのかということが議論されると思うんですけども、モニュメントじゃないけども、1800年当時の石くいが残っていますよね、あの広場に、石くいがね。あの石くいを模したのも使うということも考えられると思います。次は多分、木製の橋は架けないと思うんですけども、あの石くいぐらいは少し模したものを造ったほうが

いいのではないかなとは思いますが。ただ、私が言いたいのは、マイタウン・マイリバー整備事業の中で7億円かけたものですから、木がどういうふうに朽ちていったのか、専門家の知見を生かして、これは後の人々に伝えるべきだと思うんです。そうせんと、将来、また間違っただの橋を架けたりする。そんなことにならんようにぜひお願いをしたいんですけども、この当時、専門家の意見というのは聞かれたんでしょうか。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 常盤橋に使用しているボンゴシ材ですが、設計当時、欧州では100年以上もつと、使用実績があるということで採用している材料でございます。当時はいろいろ検討した中で採用に至ったとは考えておりますけれども、委員がおっしゃられたように、日本の風土、気候とどうだったのかというところが、全国的にも本市だけではなく、他都市でも腐朽、腐食が生じた。実際、愛媛県では落橋に至った事例もあります。本市におきましては、専門家の意見を踏まえながら4回の補修でここまで維持管理を行ってきたというところでございますが、材料の選定については当時の欧州の実績を基に採用したということになっております。

○委員長（森結実子君）山内委員。

○委員（山内涼成君）それは専門家の意見ですか。欧州で100年以上もつんだという木材を使いますよというのは確かに議論の中にありました。だけど、これは専門家の意見ですか。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 専門家の意見というか、当時、すいません、正確な記録は残っていないんですけども、設計をする中でいろいろ欧州の実績であるとかそういったものを集めて、採用に至ったと考えております。そこに専門家が入っていたかどうかというのは、今もう手元に資料がございませんけれども、設計をしたということでございます。

○委員長（森結実子君）山内委員。

○委員（山内涼成君）そこになぜこだわるかという、結局はこれ、100年もちますと言われて30年しかもっていないんですよ。30年しかもっていないということは、これをしっかり分析するべきだろうと思うんです。そうせんと、後世につながらない。欧州で100年もったからここでも100年もつんですよということは当たらないわけでしょう。そしたら、これがどういう壊れ方をしたのか、何が原因なのかということをしっかり検証しておくべきだと思うんです。そこを、若い人たちも含めて、どういう壊れ方をしているのか、どう朽ちていったのかということをしっかり検証しておく必要があると思うんです。その費用とかはないですかね。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長 現在、在り方検討会におきましても、木橋の専門家の方に御参画をいただいております。その中でいろいろ御意見もいただいておりますので、今後も、取り外しの中でできる調査というものもあると思いますので、原因についても研究していきたいと思っております。

○委員長（森結実子君）山内委員。

○委員（山内涼成君）しっかり反省をしていただいて、次につなげていきたいと思いますので、ここは要望しておきます。以上で終わります。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。中島委員。

○委員（中島隆治君）1点だけお尋ねします。戸畑枝光線のことなんですけれども、先ほど鉄道の影響、線路への影響はないかというお話がありましたけれども、ここはアンダーパスが通っていて、一般車道に対する影響というか、例えば通行止めにしなないといけない期間があるのかとか、3年半工事期間があるので、車道への影響というのはどうなんでしょうか。

○委員長（森結実子君）街路課長。

○街路課長 明治町のアンダーパスに関しましては、通行止めをしません。明治町のアンダーパスの直下に注入剤を入れて固めまして、ボックスカルバートを推進する際に、ちょっと特殊なんですけれども、事前に長方形の鉄型のパイプーフというのをに入れて、それを押し出しながらボックスを入れるという形になります。ちょっと分かりにくいんですけども、そういったことで、上からの荷重に対してしっかり支えられるような施工方法になっております。以上です。

○委員長（森結実子君）中島委員。

○委員（中島隆治君）分かりました。結構あそこを通られる方、特に通勤とかで車を使う方が多いので、その影響を聞いたんですけれども、通行止めしないということで、よかったです。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。片山委員。

○委員（片山伊君）今の戸畑の委託の件やけど、市が発注をしたら、どういう言い方していいですか、79億円をそのままJRと因縁があるから委託をしたんだと思うけど、市が工業者に発注したら、もしかして70億円で済むんじゃないかという議論があってもいいんじゃないか。そういう議論を役所内でしたかどうか。JRと因縁があるから、すぐJRに委託します、後は任せましたというんでは、ずっと従来からどうもおかしいなと感ずることがあるんやけど、多分、JRは79億円の中の経費を取って業者に発注をするんだと思います。市がそのまま直接に発注してできないわけではないのだから、ただしJRと因縁があるから委託したんだと思うが、その辺の議論が大いに役所内であったかどうか。

○委員長（森結実子君）街路課長。

○街路課長 その内容につきましても我々、事前にJRさんと十分協議をさせていただいております。確かに、JRさんにつきましては一定額の管理費というのは徴収される部分はありません。工事について、鉄道が通るときに一時的に工事を止めたりとか、あとは列車見張り員であるとか、鉄道に特化した工事監督員であるとか、鉄道のそばで重機を動かす場合の特別なオペレーターとか、そういった方々の人工にも係ってきております。さらに、平成20年に国土交通省と鉄道事業者が、これまで透明化じゃないんじゃないかというところがありまして、申合せをしております。こういった精算、積算資料につきましては、精算時に我々道路管理者にしっかり資料を提供して内容を確認しなさいというふうに申合せがっております。さらに、平成

22年でしたか、会計検査院がこの部分につきましてもしっかり管理しているのかというところでは是正指摘がありまして、それからかなり透明化になっていると判断しております。

○委員長（森結実子君） 片山委員。

○委員（片山伊君） 今、技術的なことをおっしゃった。JRは、うちによこしなさいと、全部うちがやりますからという話が前提にあって、そして前に進めたんじゃないと。要は、小倉北区の長浜からずっと新幹線下をアンダーパスで行った、あれ契約期間よりもずっと延びて、JRがずるずるした経緯があること覚えているやろ。そういうこともあるから、JRと因縁があったら何もかもJRに委託するということは、市も考え方を変えないかんよ。その分だけJRは工銭を取って、そして業者に発注するんだから。市が発注してもJRが発注しても同じことなんよ、工事は。図面上、書いてあるわけだから。それをJRがうちによこせと、委託せえと言ってどうもしているんじゃないかなという疑問点があるから、今、国土交通省うんぬん言ったけど、そこはちょっと違やせんかなという気がする。議案だから否定はしませんけどね。その辺は議会の皆さんに、こういうことで委託をします、危険が付きまとうからこうですとか何か説明がないと、委託しましたで終わっちゃ駄目なんよ、ということだけ言っときます。

○委員長（森結実子君） ほかにありませんか。山内委員。

○委員（山内涼成君） 今のところを、法律でJRと協議しなければなりませんっていう法律があったと思うんですけど、そこを説明してもらえませんか。

○委員長（森結実子君） 街路課長。

○街路課長 要綱で決まっています。建設工事公衆災害防止対策要綱というのがありまして、これが令和元年に策定されています。令和元年に策定された際の建設業法が基になっていて、この要綱が生まれています。国土交通省がこれを定めまして、鉄道事業者と協議しなさいと。委託する工事範囲や鉄道保全に関する協議を行えとなっております。以上です。

○委員長（森結実子君） 山内委員。

○委員（山内涼成君） たしか線路から何メートルとかの規定もありましたよね。

○委員長（森結実子君） 街路課長。

○街路課長 軌道中心、線路の中心から8メートル以内もしくは鉄道の敷地から5メートル以内、これがJR系の基準になります。以上です。

○委員長（森結実子君） ほかにありませんか。よろしいですか。

ほかになければ、以上で議案の審査を終わります。

明日も午前10時に開会をいたします。

本日は以上で閉会します。